

★国勢調査の結果からまちを見る!

昨年実施された国勢調査(※)では、多くの方にご協力いただきました。今号のプラス議会では、国勢調査のデータから地域の人口推移を分析し、政策立案に活用するための具体的なステップの一助となるよう、平成7年度から令和7年「人口速報集計結果」を基に、様々な角度に視点を置いた議会議員の所見を掲載させていただきます。

※国勢調査とは、国内の人及び世帯の実態を把握し、各種行政政策その他の基礎資料を得ることを目的とするものです。

根本 孝代議員 全国の市区町村の4分の1でこの5年間に1割を超える人口減少が進んだことが5年に1度の国勢調査でわかった。我が美里町の人口も将来的に9,000人前後になってくる。10,000人を下回らないまちづくりを、住民の健康や幸福度を損なわないようにしつつインフラや施策を縮小する取り組み、将来の負担増の回避を目指さなければと思います。

櫻沢 克幸議員 前回調査結果との比較では、722人の人口減少で、減少率6.54%、4世帯の減少です。令和11年4月開校予定の統合小学校やスクールバスの導入など、更なる子育て支援の充実や教育環境の充実が若者世帯を増加させると考えます。「子育て・教育をするなら美里町へ」

橋場 倅男議員 埼玉県内では、長瀬町、小鹿野町、東秩父村が10%を超えた。自治体の予算規模縮小で、公共サービスが低下しかねず、早急な対策が求められる。美里町においては、国勢調査人口と住民登録人口で多少の誤差がある。住民票はあるが、実際に居住している人は若干少ない。国籍を問わず町内に移住定住してもらい、国際的な町にしていきたい。

田端恵美子議員 昨年の国勢調査からもわかるように、平成7年度(1995)美里町人口12,197人をピークに、(令和2年)11,167人・(令和3年)11,059人・(令和4年)10,966人・(令和5年)10,891人と少子高齢化傾向にあります。また、昼間の人口の方が夜間の人口より多いというのが町の特徴です。そのような中でありますが、商業施設や買い物などの施設(コミュニティ拠点)があるといいと思います。

大島 輝雄議員 令和2年の世帯減少が242件、令和7年の世帯減少は4件で減少率にブレーキがかかりました。施設内世帯の数値が無いので明言できませんが、町の政策に一定の効果が出ているものと感じます。世帯数増は経済の好循環を生み、持続可能なまちづくりには必要な要素であると思います。

櫻沢 保議長 美里町の人口は、昭和29年(1954年)が過去最多の13,638人ですが、令和7年10月の国勢調査では10,317人(75.6%)と大幅に減少。人口減少の主な要因は、出生率の低下と晩婚化・高齢化に伴う自然減少・若年層の都市部流出等です。一方、人口減少対策としては、出生率向上や移住促進・地域産業の創出等の取組のより一層の充実が必要。また、他方、行政の効率化・車利用による経済圏の広域化の進展等から、今後、児玉郡市の広域合併等の検討も必要と考えます。

堀越 賢司議員 年齢に見る男女比率について、0歳~64歳までの男女比率は男性が約10%ほど多い。65歳以上になると男女比率は逆転し女性が多くなる。65歳以上の男女比率は、平成7年では男性15%で女性21.9%であったが、令和2年では男性30.4%で女性37.1%となっており、男女とも著しく寿命が伸びている。美里町の健康指導の結果であると感じます。

新井英行副議長 年齢に見る美里町の男女比は、昼夜間人口比率106.7%で県内3位。働く場はあるが住む場には選ばれていない。通勤者を定住へ導く住宅・移住施策に加え、産科医療や子育て支援、学習支援による学力向上をより一層推進して教育環境を整えれば、「働き・育て・学べる町」として選ばれる可能性がある。

フジタリイジ議員 令和7年国勢調査人口速報の年齢に見る男女比では、美里町の人口は前回比6.54%減と全国平均を上回る減少率となり、世帯数はわずかに減少しています。今後は人口減少を前提としたまちづくりを進めつつ、交通の利便性や企業誘致、小中一貫校の整備、役場周辺のコンパクトなまちづくりを推進し、子育て世代の定住促進と地域活力の維持につなげることが重要であると思います。